

集落支援員活動報告

保原地域担当 東城 一弘

保原地域活性化のため

5年ぶりに東城が帰ってきた！

集落支援員・・・何すんの？

○集落支援員とは？

地域の実情に詳しく集落対策の推進に関し、ノウハウ・知見を有した人材。

市から集落支援員として任用され、市と連携し、集落への「目配り」として集落の巡回、状況把握を実施する。・・・協働まちづくり課（総務省の制度活用）



過疎地の集落維持が目的では・・・？



自由に集落の活性化してください。←（協働まちづくり課）



地域活性化＝当然「飲み会でしょう！！」・・・コロナウイルスも5類になったし。

保原総合支所長・・・指令

○保原地域の課題

- ①担い手不足による組織の硬直化 → やる人がいない、だからやれない。
- ②新型コロナウイルス感染症による地域活動の停止 → 何もやらない方が楽。
- ③地域づくりや地域課題の解決は → 市のやるべきこと（協働の意識不足）

▶1年目 → 大田地区を重点的に支援

どこに行っても・・・集落支援員て何すんの？

◎まずは情報交換・・・接点を持った団体及び交流会（12月末現在）

上保原地域づくり振興会（20回） 富成地域まちづくり振興会（20回）
大田地区自治振興会（24回） 柱沢地域まちづくり振興会（14回） 保原中央自治振興会（20回）
市民活動支援センター、市観光物産交流協会、市農林業振興公社、市社会福祉協議会、
市スポーツ振興公社、伊達ケーブルテレビ、だて青年会議所、保原振興公社、
保原地域包括支援センター、保原商工会青年部、保原町商業協同組合、NPO「とっこす」、
スマイルパークほばら、伊達高校、大田小学校、富成駐在所、保原スクールコミュニティ、
西町町内会、泉畑第1町内会、八幡台町内会、（一社）つむぐるカンパニー、伊達な宣伝部長、
保原地域青少年育成推進協議会ブロック会議、保原地区町内会長会研修会、
紅屋峠千本桜まつり関係者会議、農政課主催「地域計画策定のための話し合い」、
全国高校生地方鉄道交流会、あぶくま人づくり塾参加・・・等々

地域自治組織の現状

◎意 識・・現状は？

- ①市に対する不満・・行政主導で作らせておいて予算削減、
地区交流館管理運営（施設及び備品）
修繕及び更新がされない。
- ②公民館時代の延長・・勘違い（生涯学習事業は一部）
- ③副会長（あて職）・・会長に任せきりで意識が低い。
- ④各専門部会・・話し合いが足りない（コロナの影響）
- ⑤事務局・・地区交流館受付がメイン業務

◎熱いバトル・・やり取りの一コマ

1 ラウンド：第3回情報交換会（事務局）にて

地区：「集落支援員として大田地区の活性化をして事務局はできない」
東城：生涯学習事業に偏りすぎている、地域課題を探るための話し合い
が必要ではないか・・・「大田には人材はいる、俺がやる」

2 ラウンド：第4回情報交換会（会長・事務局長）にて

大田・保原地区：「何か活動に問題でもあるのか」
東城：「問題があるのではなくコロナウイルス蔓延以降、話し合いが
足りない。話し合いの時間を作るため、事業の見直しをしては、
どうかと提案している」
懇親会：2人から同時に言われ・・「気合がはいった」

◎地域づくりの「意識改革」が必要と確信

大田地区座談会：テーマ「大田地区について語ろう」 (25名をリストアップ)

◎（第1回）地域課題・・・48項目（一部紹介）

- ・近所の助け合いが減ってきている。未婚の単身世帯が増えている。
- ・若い人は消防団に入るものとは考えていない。消防団は酒ばかり飲んでいると思われる。消防団が成り立つか今後が不安。
- ・地域で子供の顔がわからなくなっている。子供が中学生になると地域と関わる事業がなくなる。保護者同士の関係性も希薄になる。
- ・近くに勤め先がない。同級生で地元にいる人が少ない。
- ・体協が無くなって残念。学校と地区で一緒に運動会を行っていた。運営は大変だが無くなると寂しい。
- ・高齢の単身世帯が増えている。草刈りに出てくる住民が高齢化、見守りする人も高齢化している。
- ・若い世代が参加できる行事がない行政主導の行事やイベントは人が集まらない。
- ・赤坂森林公園は大田地区のシンボル。

大田地区座談会：参加者アンケート

◎（第2回）参加者アンケート・・・（一部紹介）

- ・たくさんの意見が出て楽しかった。
- ・子育て世代の意見が重要だと思った。地域の核はやはり「子供」！！
- ・昔やっていた行事の復活が地区の活性化ではないか。
- ・生まれも育ちも大田、4年前に帰ってきた。地域の人たちと話す機会がなかった。今まで以上に大田を考える良い機会になった。大田の人はみんな温かいと感じた。
- ・話してみると色々アイディアが出てきて、出来そう気がする。阿武隈急行とコラボした何かできないか。
- ・地区の課題を皆さん真剣に考えていることが分かった。今回のような話し合う場を設けることで、良い大田になるのではないか。
- ・参加しなければ考えもしなかった事で、とても勉強になった。
- ・過去のイベント等知らなかったことが分かり勉強になった。子供が楽しめる行事ができればよいと思う。
- ・アトラクション的な計画だけでは、地区の活性化は望めない。

地域自治活動に話し合いの場が・・・不足している。 話し合うこと・・・大事な事業である。



◎保原地域自治組織情報交換会の開催

- 7月 第1回会長・理事長会議 (会長同士の情報交換)
- 8月 第2回副会長・副理事長会議 (副会長としての自覚)
- 9月 第3回事務局会議 (事務局の現状)
- 12月 第4回会長・理事長・事務局長会議 (情報交換及び懇親会)
「懇親会：またまたバトル」・・・久々に熱くなった！！！！

◎大田地区の活性化

- 11月 第1回大田地区座談会 (16名参加)
- 12月 第2回大田地区座談会 (13名+知人7名参加)
- 保原中央自治振興会総務企画委員会 (4名参加)

今後の取り組み

◎ 地域自治組織の各専門部会の活性化

- ① 専門部会において話し合う場を増やす。
- ② 地域課題をフリーで話し合う場の設定・・・役員以外の参加者を加える。

◎ 地域自治の最小単位 = 町内会

- ① 会長職・・・「見える化」

何が大変なのか、整理することによりイメージが変わる。

- ② 町内会長との意見交換

◎ **要請があれば** → **どんどん地域に入って行く。**

ご清聴ありがとうございました。

おまけ

令和5年7月24日（気温：38℃）（保原総合支所 → 業務防災係の助っ人）

赤坂森林公園前の市道脇の草刈作業

倒れそうになるくらい厳しかった。

若い者に弱みを見せる訳にはいかない。

旨いビールを飲むために気力を振り絞る。

厳しい一日だった！！！！